

ベトナムでの駐在生活について

ベトナムデスク 前田 昌良

1. はじめに

今回は、私自身がベトナムで駐在し感じたこと、そしてこれから駐在される方にとって知っておくべき生活環境などについて、レポート致します。

2. 治安と民族性

ベトナムでは強盗殺人などの凶悪事件はほとんどありませんが、スリやひったくりは増えています。ベトナム人は親日的で、基本的には人当たりの良い方が多いと言われていています。なお、北部と南部では性向は異なり、守旧で伝統を重んじる北部に対して、南部は急進的で変化への志向が強いと言われていています。

3. 気候

北部は亜熱帯に属しており、5月から10月までは高温多湿な夏季が続きますが、11月から4月までの冬季はかなり肌寒く、日本の冬と同様にセーターやジャケットを着用します。南部は熱帯気候で、1年を通して平均27度くらいの常夏です。5月から10月までは雨季となり、毎日スコールがありますが、11月から4月までは乾季となり、乾燥した暑い日々が続きます。ハノイでは毎年1回は洪水に見舞われ、特に昨年11月には死者が出るほど深刻な被害が発生しました。

4. 住居

駐在員の住居は、高級賃貸アパート（サービス・アパートメント）やマンション、一軒家と様々で、赴任者の暮らしぶりに応じて選ぶことが可能です。一般的には1000ドルから、高いもので3500ドルの物件が利用されているようです。

物件は先輩・知人からの紹介や不動産業者を利用し探すこととなります。ローカルの不動産業者に依頼する場合、不動産業者は仲介手数料を家主側から受け取る為、依頼人は仲介手数料を支払うことなく、物件の紹介や家主との交渉まで依頼することが可能です。最近では、日系の不動産業者や日本語対応可能なローカルの不動産業者も現れています。

5. 食生活

ベトナム料理は、ヘルシーで東南アジア料理の中でも辛みが少なくマイルドなため、大抵の日本人の口に合いますが、香草など日本では食さない食材なども多く、食事が合わない駐在員も中にはいるようです。市街には和食、中華料理や韓国料理のレストランも多く、様々な食事を楽しむことが出来ます。

6. 衛生・医療

衛生環境に関しては市街でも良いとは言えず、また、病院の設備や医療技術も十分ではありません。ハノイやホーチミンなどの大都市には、外資系の医療機関が数か所ありますが、高度な医療技術を要する手術や入院の際には、シンガポールやバンコクといった第三国への移送や、日本へ帰国して治療を行うことを考える必要があります。

ベトナムで予想される主な病気は、コレラや腸チフスなどの細菌性下痢、肝炎、呼吸器感染症、日本脳炎、マラリア、デング熱等があります。これら病気への予防策として、生水、生野菜や加熱の不十分な食べ物を食べない、蚊に刺されないように注意するなど日常生活での配慮に加え、赴任前の予防接種や、定期的なメディカルチェックを受けることが肝要です。

7. 学校

現在、ハノイ、ホーチミンに日本人学校が1校ずつあり、インターナショナルスクールも数校あります。日本人の駐在員のご子息は日本人学校に通う傾向にあるようです。

8. 電気・通信

ベトナムの電圧は220Vで、日本の電化製品はそのままでは使用することができず、変圧用のコンバーターが必要となります。また、プラグの形も二相丸ピンタイプや三相平型ピンタイプ、日本と同じ二相平型ピンタイプも見られます。

携帯電話は、都市部を中心に広く普及しています。ベトナムの携帯電話には、大きく分けて2通りの支払い方法があります。先に通話料金分のカードを購入するプリペイド(先払い)式と、電話会社と契約し、利用後に支払うポストペイド(後払い)式で、後者は現地での雇用証明書などの提示が必要です。また、ベトナムでのインターネット環境は、原則、ADSLサービスの利用が基本で、通信速度はそれほど速くなく、通信が途切れることもしばしばです。

9. 交通

ベトナムは公共交通手段に乏しく、市民の交通手段としてはバイクが一般的です。しかし、最近では都市部で、雨や暑さを避けるための移動手段として自動車を選ぶ人々が増え、朝夕の通勤時間帯には多数のバイクと自動車による交通渋滞が発生します。また、信号などの交通インフラが不十分で、ベトナム人ドライバーの運転マナーも悪いため、交通事故も多く発生しています。このため、駐在員の通勤や移動には、ドライバー付きの自動車をレンタルする企業が多いようです。